

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 3 1 号

【平成 23 年 9 月 5 日 (月) 発行】

発行：J A グループ宮城災害復興本部

編集：J A 宮城中央会

〒980-0011 仙台市青葉区

上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F

電話番号：022-264-8697 又は 264-8207

FAX 番号：022-216-4466

E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

I. 復興本部からの情報提供

1. 全国の青年部員らが東日本大震災の被災地を視察、宮城県農協青年連盟と意見交換
2. 宮城県内 J A 青年部盟友が J A みやぎ亘理のイチゴハウス復旧作業を支援
3. 原発事故に伴う損害賠償金額を 2 億 2 2 4 3 万円 (7 月末集計分) と決定
4. 2 3 年産米の放射能物質の予備調査開始
5. 出荷制限解除で、県産牛の屠畜・セリが再開
6. J A 長野県グループから軽トラック 1 0 台が届く
7. 全中の萬歳会長、村上副会長らが被災地を視察
8. J A グループ支援隊活動について

I. 復興本部からの情報提供

1. 全国の青年部員らが東日本大震災の被災地を視察、宮城県農協青年連盟と意見交換

秋田から大分まで、全国の青年部員ら 3 2 名が 8 月 2 3 日 (火)、津波で大きな被害を受けた J A 仙台管内荒浜地区および J A みやぎ亘理管内の亘理・山元地区を巡り、震災後 5 ヶ月が経過した農地や施設などを視察しました。その後、J A みやぎ亘理本所会議室にて、宮城県農協青年連盟委員や地元 J A 青年部長らと意見交換会を開き、復興への課題・被災農家の現状、今後の支援のあり方について話し合いました。



J A みやぎ亘理集中選果場で被災の状況を説明する J A みやぎ亘理青年部浅川部長 (手前) と参加者ら

2. 宮城県内 J A 青年部盟友が J A みやぎ亘理のイチゴハウス復旧作業を支援

8月17日（水）より31日（水）まで、J A みやぎ亘理管内のイチゴハウス建設作業を支援するため、宮城県 J A 青年部盟友がボランティア活動を行いました（14日間延べ53人日）。クリスマス時期にイチゴを出荷するため、J A みやぎ亘理ではハウスの再建を急ピッチで進めています。県内外から集まったボランティア支援とともに、県内 J A 青年部盟友も汗を流して作業に取り組みました。J A みやぎ亘理岩佐組合長からは、多くの支援を頂いていることへの感謝の言葉が述べられました。

3. 原発事故に伴う損害賠償金額を2億2243万円（7月末集計分）と決定

8月25日（木）J A ビル宮城において、J A グループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会が第2回総会を開き、原発事故による損害賠償請求金額を7月末集計分で2億2243万円と決定しました。

この賠償金額は、県内13農協とみやぎの酪農協、県酪農協の農家計555人が、放射性物質の汚染によって使用自粛を求められた牧草および出荷を自粛した葉物野菜などの損害額を請求したものです。内訳は、牧草の代替飼料の購入費が2億1898万円、風評によって価格が下落したホウレン草など4品目の損害額が345万円となっています。

8月31日（木）に東京電力へ請求、10月上旬には仮払金が農家に分配される見込みとなっています。

なお、9月26日（月）には肉用牛等の8月末集計分の損害賠償金額を確定させる予定です。

4. 23年産米の放射能物質の予備調査開始

8月26日（金）、23年産米の放射性物質予備調査が始まり、県南部の角田市、丸森町、大河原町、柴田町、川崎町の5市町で、調査用の稲の刈り取り作業が行われました。9月2日（金）までに、角田市、大河原町、柴田町、川崎町の全地点を含む21地点で不検出と発表されました。予備調査は9月中旬まで県内の134地点で実施し、本調査は1950年10月現在の旧市町村単位で、9月上旬から行われる予定です。



検査のため刈り取った稲を袋詰めする大河原農業改良普及所の担当職員ら

5. 出荷制限解除で、県産牛の屠畜・セリが再開

国の出荷制限解除を受けて8月23日（火）、県内の肉牛農家は約1カ月ぶりに出荷を再開しました。26日（金）には仙台中央卸売市場食肉市場で県産牛枝肉のセリが再開されました。89頭が上場されましたが、平均価格は和牛去勢A5等級が1キロ当たり1887円と、前年同月比で9%安、同A4等級が1443円で16%安といずれも前年を下回りました。

「風評被害」に対して、出荷農家からは東京電力に賠償を求める声が高まっています。



8月26日に再開された県産牛枝肉のせり

6. JA長野県グループから軽トラック10台が届く

8月30日（火）、JA長野県グループから、津波被害を受けたJA南三陸、JA名取岩沼、JAみやぎ亘理に、合わせて10台の軽トラック（中古）が届きました。大和町のJA全農みやぎ生活総合配送センターで行われた贈呈式には、長野県からJA長野県グループ組合長会の芳坂栄一副会長（JA信州うえだ組合長）ら4人が、本県からはJA宮城中央会の菅原章夫会長、JA全農みやぎの千葉和典県本部長、JAみやぎ亘理の岩佐國男組合長など関係者約20人が出席しました。

JA長野県グループ組合長会の芳坂副会長は「JA長野県グループは震災直後から支援活動を続けており、6月にはJAみやぎ亘理に、職員25人を支援隊として派遣しました。津波で多くの車両を失くし、業務に支障をきたしていると思います。これからの活動に軽トラックをぜひ役立ててください」と、挨拶し激励しました。

これに対し、JAグループ宮城を代表して菅原会長と、寄贈を受ける3JAを代表してJAみやぎ亘理の岩佐組合長がそれぞれ御礼の言葉を述べました。



贈呈式で挨拶するJA長野県グループ組合長会の芳坂副会長（左）。
右はJA宮城中央会の菅原会長

7. J A全中の萬歳会長、村上副会長が被災地を視察

8月31日（水）、J A全中の萬歳章会長、村上光雄副会長らが東日本大震災で甚大な津波被害を受けたJ A南三陸、J Aいしのまき管内を視察しました。

この日はまず、J A南三陸の高橋正組合長らの案内で、被災農地の復興状況や、壊滅した本店跡地を視察した後、南三陸町志津川に開設されているJ A仮設店舗を訪れ、職員を激励しました。

引き続きJ Aいしのまき管内を訪れた一行は、齋藤賢仁組合長らの案内で、海水が流入したが、除塩して作付けをした河北地区の水田などを視察しました。萬歳会長は「J Aグループとして、今後も震災復興に総力を挙げる」と、関係者を激励しました。



J Aいしのまき管内の除塩水田前で、齋藤組合長の説明を受ける
J A全中の萬歳会長（中央）ら一行

8. J Aグループ支援隊活動について

全国J A支援として、4月より継続的に「東日本大震災J Aグループ支援隊（全国のJ A役職員による災害復興支援ボランティアチーム）」が被災J A・組合員への支援活動を行っています。

現地からの評価が高いため、J A全中は7月末までとしていた予定を変更して10月まで延長することを決定しました。

第17陣23名が9月5日（月）に到着する予定です。9月9日まで12名がJ A南三陸管内で、11名がJ Aみやぎ亘理管内で、園芸用パイプハウスの撤去・修復作業等を実施します。

以 上